

2025年度

第16回NP資格認定試験の概要

一般社団法人 日本NP教育大学院協議会

I. NP資格認定試験

1. 試験の目的

NP 資格認定試験（以下、試験という）は、診療看護師（NP）としての質を評価・保証し、一定のレベルに達していることを確認することを目的に実施する。

2. 試験の施行

一般社団法人日本NP教育大学院協議会規約第2条に基づき、第16回NP資格認定試験を2026年3月1日（日）に実施する。

3. 試験の実施体制

公正性、公平性、透明性のある試験を実施するために次の組織を設置している。

1) 評価委員会

評価委員会は、診療看護師（NP）の教育および大学院 NP 養成コースを修了する予定の学生の質の保証のために、第三者の立場から、資格試験の方法や内容等が公正、公平であることを評価する。第16回資格試験の評価委員会のメンバーは以下の通りである。

独立行政法人 国立病院機構 理事長 新木一弘 氏

公益社団法人 日本看護協会 会長 秋山智弥 氏

日本看護系大学協議会 専務理事 鎌倉やよい 氏

学識経験者 清水嘉与子氏（日本訪問看護財団前会長）

学識経験者 山本則子氏（東京大学教授）

学識経験者 齋木佳克氏（東北大学教授・心臓血管外科学会理事）

学識経験者 塚田（哲翁）弥生氏（日本医科大学病院教授・日本循環器学会理事）

学識経験者(国外) エクランド 源 稚子氏 (Pediatric Medical Group of Tennessee, DNP APRN NNP-BC FAANP FAAN)

2) 試験 WG

試験 WG は、試験を円滑に実施するため、資格試験の実務作業を行う。WG は、NP 教育を実施または予定している大学から選出された代表者および、NP 教育に造詣が深い者により構成されている。WG のメンバー名は公表しない。

II. 受験資格

1. 日本国内の看護系大学大学院の NP 養成コース修了者/修了予定者

一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会（以下、本協議会）が教育課程認定を行った大学院修士課程で、修了に必要な単位を修得し、修了試験に合格し、各大学院において修了者として認定された者および修了見込みの者。

2. 海外の NP(ナースプラクティショナー) の資格取得者

日本国の保健師、助産師、看護師のいずれかの免許を有する者で、米国等の大学院修士課程 (NP 課程) 以上を修了し、それぞれの国等が実施する NP の資格試験等に合格し、NP の免許を取得している者。

※海外の NP 資格取得者で本協議会の NP 資格認定試験の受験を希望する場合は下記へ事前連絡する。

日本 NP 教育大学院協議会事務局 maf-jonpf@mynavi.jp

III. 試験領域

試験領域は、クリティカル領域、プライマリ・ケア（成人・老年・小児）領域を統一して実施する。

IV. 試験方法

別表に示す科目に応じた出題割合をもとに筆記試験を行う。

表 1. NP 資格認定試験の出題科目と出題割合

科目	出題割合	科目	出題割合
① NP(診療看護師)論	5%	⑥ 臨床薬理学	10%
② 疾病予防・健康増進	2%	⑦ クリニカルアセスメント	30%
③ 医療倫理	3%	⑧ クリニカルマネジメント	30%
④ 医療安全・関係法規	5%		
⑤ 病態機能学	15%		

V. 出題基準

1. 出題基準に関する基本的な考え方

NP資格認定試験は診療看護師（NP）として、その任務を果たすために必要な基本的知識・技能を修得していることを確認するために行う。出題基準を明示することは、受験者に対し出題範囲を提示するだけでなく、社会に対し、NP養成教育の到達目標（履修内容、範囲とそのレベル等）を示すものであり、診療看護師（NP）の質の担保のための一手段でもある。出題内容は、本協議会が定義している診療看護師(NP)の役割と診療看護師(NP)に必要とされる能力としている「7つのコンピテンシー」に該当するものである。

2. 出題基準

表 1 に示す出題科目を大・中項目に分類した出題基準を別紙に示す。出題基準は、科目ごとに大・中項目に分類する。大項目は、NPの到達範囲を大別したもので、プライマリ・ケア領域およびクリティカル領域のNPが、その任務を果たす上で、必要とされる基本的知識・技能の項目を示す。中項目は大項目の内容をさらに明示したものである。なお、試験の出題基準に示す内容は、それぞれの大学院修士課程の講義・演習・実習で扱われている内容を超えることもありうる。

VI. 合格基準

合格基準は、年度毎に評価委員会の審議を経て決定する。不合格者については翌年度以降の再受験を認める。